

E  
エッセイ  
ssay.日本人と外国人が  
「共生」できるまちづくりを目指してNPO法人 フロンティアとよはし  
理事長 河村八千子

私のボランティア活動の原点は「外国人市民の生活支援と語学支援」です。日本で暮らすのに必要な日本語の読み書きや会話を教えることから始まり、医療や精神的な支えを含む親子丸抱えの生活支援まで、ありとあらゆることを経験できたこの10年は、今の私を支える大きな原動力であり、その時に作り上げたネットワークは私にとってかけがえのない財産となっています。

私は3年前から「フロンティアとよはし」という市民グループで代表を務め「ことばをかけ橋とし、双方向の学びから理解を深める」ことを目的とした事業を行ってきました。昨年度は豊橋市内で「外国人のための親子日本語教室」3教室と「日本人のためのポルトガル語教室」2教室、「岩田団地・柳原住宅内で実施する外国人生活者のための日本語教室」を実施。およそ50人の外国人市民と10人のその子どもたち、20人の日本人市民の方たちが、現在も各教室で学んでいます。

また、永住を視野に入れた「使える日本語」「生活に役立つ日本語」の指導にも力を入れ、さらに子どもたちへは「高校進学・就職」を念頭に置いた学習指導や進路指導、カウンセリングも行っています。生徒たちは現場の優秀なスタッフに支えられ、励まされ、背中を押されながら、今となっては仕事を手に入れるための「必須条件」となった日本語を習得すべく学習に取り組む日々です。

さらに今後の人材育成・資金調達など、団体の土台強化と事業の幅を広げるために、2010年8月に法人格を取得し、9月から「特定非営利活動法人フロンティアとよはし」として新たにスタートしました。現在、ボランティアや活動に協力しているメンバーは社員を含めて約30名。各教室で企画運営や指導にあたっています。

特定非営利活動法人になるということは信頼を得られる反面、さまざまな法的手続きや書類の提出の義務を負います。さらに、次年度の予算を考え、助成金や

委託事業の提案書を書きながら資金調達を行わなければなりません。昨年末から書類の山と格闘し、慣れない作業に悪戦苦闘する日々です。

今後の目標は、豊橋市内の外国人集住地区で実施する日本語教室と小・中学生の学習支援教室を増やしていくこと。特に、このまちに生きるセカンドジェネレーション、サードジェネレーションとなる外国人の子どもたちが目的を持って学習に取り組み、目標を持って進学・就職を考えられる環境づくりに取り組んでいきたいと考えています。その第一歩として、4月から石巻校区で中学生のための学習支援教室をスタートさせました。現在15名の中学生が自分で決めたメニューにしたがって教科学習や日本語学習に取り組んでいます。また、7月には外国人生活者のための日本語教室を金田住宅でスタートさせる予定で、現在その準備を進めています。

法人となったフロンティアとよはしのミッションはこの町に住む日本人と外国人が「共存」ではなく「共生」ができる「まちづくり」です。団体のミッション実現と、縁あってこの町に来た彼らの「この町に来てよかった。」という言葉と、子どもたちの笑顔のためにがんばってきたいと思います。



日本語教室の様子(柳原住宅)